

小学校特別支援学級での ICT 利活用事例

～タブレットパソコンで、書く力を育む～

池田 勇

NPO 法人情報教育支援研究会

kamaken9@gmail.com

1人1台の情報端末の整備として、タブレットパソコンが注目されている。特別支援学級の児童を対象に、タブレットパソコンと数種類のアプリを活用し、学習上の困難を改善・克服する事例を示したい。その事例を通じて、情報端末の整備に向けた課題を報告する。

1. はじめに

特別支援学級でのタブレットパソコン（以下、タブレット）活用例を通じて、1人1台の情報端末での学習効果や課題等を報告したい。

2. 特別支援での利活用

2.1 指導の準備として

私はK市教育センター内に、情報教育やICT利活用を推進する教員として配属されていた。

平成26年7月に、特別支援学級の児童への指導に関して、研究指導主事とU小学校特別支援学級担任から相談を受けた。その児童の学習課題を克服するために、以上3名で実践を行った。

2.2 対象児童の状況

対象の児童は、U小学校4年S君で、特別支援学級に在籍し、学習課題は書くことにある（表1）。

	対象児童の学習状況
書く	・困難、抵抗感あり（鉛筆をもたない） ・文字、特に漢字が書けない ・お手本をみながら、名前を練習中
その他	・全般的に意欲をなくしている。

（表1）対象児童の学習状況

2.3 指導準備

タブレットを使って、文字を書く抵抗感を低減し、「鉛筆で、名前（漢字）を紙に書く」ことを到達目標とし、表2のように情報端末等を整えた。

端末	ネクス7 1台
アプリ	常用漢字筆順辞典 FREE (NOWPRODUCTION CO.LTD)
	小学生手書き漢字ドリル 1006・はんぷく学習シリーズ (学校ネット株式会社)
	視覚運動につながるもの など

（表2）情報端末機材とアプリ

3. 学習の様子

3.1 タブレットでの学習

約6ヵ月間の学習の様子を、表3にまとめた。

9月	アプリ「手書き漢字ドリル」を始める。 「小学1年の巻」その1～その4 答えがわからなかった時は、答えを出しなぞって練習し、もう一度テストをした。
10月	「小学1年の巻」その5～6 漢字が複雑になり、続けるのが難しくなってきた。わからない漢字は、辞書機能を使って調べようになった。 スピードは落ちたが、続けている。 「気」を2日かけて覚えた。
11月	辞書機能で調べ、覚えてから書いている。 「小学1年の巻」80問修了 小6の分まで勉強したいと言い出した。
2月末	「小学2年の巻」160問修了

（表3）6ヵ月間の学習状況

3.2 鉛筆とノート等を使っている学習

タブレットの学習と並行し、鉛筆で文字を紙に書く練習を続けた。

11月末、名前の漢字4文字中3文字を見本なしで、12月中旬には全て書けるようになった。

4. 学習の成果

到達目標を達成し、意欲的に漢字練習に取り組むようになり、学習に取り組む姿勢ができたことで、生活全般に落ち着きがみられるようになった。

5. 整備に向けて

タブレット端末の整備に関わり、以下の項目を再検討する必要を感じた。

- ・アプリのダウンロード環境・購入方法
- ・フィルタリング、セキュリティ対策
- ・ネットワーク環境含めた機能制限等

6. おわりに

タブレット等の情報端末を整備する場合、事前に利用目的や学習効果等を調査・研究し、整備と同時に活用が広がることを期待したい。

最後に、タブレットを長期試用させて頂いた九州工業大学に感謝申し上げます。